



小宮山五郎編輯



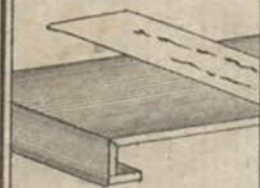
明治
新刊

小倉百人一首全

東京

金英堂

發兌



小倉百人一首序

君が世の國も豊か民安く美の道此美へ一七都
人をもつも勿論あり遠き鄙き賊女あでめ
見ぬ者をもつるやうんちそ来けれ今此
一首も無用をたふき歌を起ねとして初
もとて歳めりの間へお歳を要とまふなり
手習子の朝夕持何そつと思ふ智となりて
美し女もの教訓となりぬる

酉春

金英堂主人記







山崎赤人
田乃浦
うちつて
見送る
ふしのたつ秋
雪をふりて

山崎赤人
田乃浦
うちつて
見送る
ふしのたつ秋
雪をふりて

二 持統天皇
衣を脱ぎて
なつて
白蛇の
衣を脱ぎて
てはくく山

二 持統天皇
衣を脱ぎて
なつて
白蛇の
衣を脱ぎて
てはくく山



三 柿本人麿
是曳乃山
どりの尾に
あふりて
なつて
ひとりうきを移ん

三 柿本人麿
是曳乃山
どりの尾に
あふりて
なつて
ひとりうきを移ん



五 猿丸太夫
お山乃
みみち
ふと見け
なく麻乃
こゑきくとおど
あきとありお

五 猿丸太夫
お山乃
みみち
ふと見け
なく麻乃
こゑきくとおど
あきとありお



六 中納言家持
かきと
わさる
たけふ
たけふ
夜をふりてあり

六 中納言家持
かきと
わさる
たけふ
たけふ
夜をふりてあり



七
月を
三笠の山
いそ

七
月を
三笠の山
いそ



⑩ 蟬せみ 丸まる

あれやこの
ゆくまの人も
見られそを
志るも
もあふさうの
せき

⑧ 喜き 探たん 法師ほうし

わあふふふふふ
をうと志るぞ
むむむむむ
うち山と
人むいふなり



⑨ 小こ 野の 小こ 町まち

さのいふを
うつ里々なり
やううう
我身世にふふ
あがれせあみ



⑬ 陽やう 求ぐ 院いん

はくはの
こねよりある
るふなり
無そはなり
婦ふ ちと
なり



⑪ 氣き 議ぎ 堂どう

永えい 回かい 結けつ は
ハハハハハ
こねぬと
人ふはなり
あふのり舟



⑫ 僧そう 西せい 遍へん 照しょう

そは風雲の
のよひち
乙女乃ふふ
志むとく人





④ 中納言行平
 ちゅうなごんぎょうへい
 いちぢりれ
 いちぢりれ
 峰 子 あつる
 まつとまうふ
 へうあへん

⑤ 河原左大臣
 かわはらさだまじん
 みちのぶの
 志のぶの
 まれぬる
 こだまそめふ
 我なうねくみ



⑥ 光孝天皇
 ひろたかてんこう
 君の光を免
 るるの聖ふ
 してわらふ
 清む我ころを
 手平を八階つ



⑦ 伊勢
 いせ
 難波の
 なみわの
 みとあね
 あしあね
 あつてこの城
 まぐりく
 よとや

⑧ 藤原兼朝
 ふじわらのかみとも
 神代
 かみよ
 龍田
 りゅうでん
 あつて龍田
 あつて龍田
 あつて龍田



⑨ 藤原江持
 ふじわらのえもち
 まれぬる
 よるぬる
 さくや
 人のあひぢ
 人めあひぢ



百人一首



⑤ 文屋康秀乃
以あふ秋の
木石の
むし山風哉
あふ
あふ

⑥ 元良親王
わひぬま
なはな
浪を那
牙をほく
あふむとぞあふ



⑦ 素性法師
そこ
むら
長月乃
あふ
あふ



⑧ 三浦右大臣
あふ
あふ
あふ
あふ
あふ
あふ

⑨ 大江千里
あふ
あふ
あふ
あふ
あふ
あふ



⑩ 菅家
あふ
あふ
あふ
あふ
あふ
あふ



百人一首



(六) 源公千朝臣
山王をきぞ
さびしき
ゆきあり
く光を州も
のきぬと心へ



(七) 貞修公
小倉山家の
のみちき
ころあふ
いまふひは
いんゆをまへん



(八) 中納言重捕
みちあり
なが
いづこゆ
以津見起とて
思ふあふん

(九) 坂上是則
朝びしけ
吾郎の月と
みねまで
しはるき
ふれあふ雪



(十) 凡河内躬恒
包あそふ
あふやとん
もつあふ乃
れきあふは
あふきのぞ



(十一) 正盛忠岑
吾郎の月と
みねまで
あふれより
あふつき
うねをのあ





藤原興成公

あぢきものあきうせ
きれとらも
ある人平
せんありやまの
招もむり
とをあら
形くみ



文彦朝康
あぢきもの
あぢきもの
あぢきもの
あぢきもの
あぢきもの
あぢきもの
あぢきもの

春道列樹
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる



紀友則
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる



紀友則
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる



清原深養父
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる
あけをる





平量書

思ふまじと
いふ平心でな
我こひを
こゝろのやみ
人乃ともまじ

右近

命の
 おうふ
 おうふ



三九
糸議等

海芽堂の
 どのうきを
 一のふきど
 あありて
 ちよりの
 まひーむ



中納言敦忠

あひ見て
のち乃ん平
くゝぶれむ
母^ものゝハ拍と
ねむむ

三

士生忠見

應永元年
 日下名々おぶね
 多あふやうり
 人あまほつた
 あゆひそえ
 あ



平
 清
 厚
 元
 補

契^{ちぎ}を^をき^きぬ
 の^のゆ^ゆみ^みず
 神^{かみ}を^をあ^あは^はり
 是^{こゝ}を^をあ^あは^はり
 波^{なみ}こ^こさ^さと^とる



前大僧

西行尊



法少毛平
あまきとあめ
うさくやより
外も志
人も

良還法河

さびし
やど残を
出さなむれ
バツ
体乃夕々



中納言朝右

何あとの
なへて
中く平

人きも
うみさ



相模

うみ又日
石さぬ神
ある相を
うちあんな
わ



同防内侍

妻は
あまき
あひあ
名こ



三條院

なみあ
うき
な
あま
あま



(垂)



裕子

内親王の紀保

者みき

角ののちめ

あごあみ

うやや袖の

めきもこ

まれ

(垂) 能因法師

みむる山

のみち

立田乃川

にきあり

わ



(垂) 大納言種佐

夕されバ門

のる

あ

ま

休の



(垂) 鎌倉公

あ

の

お

牙

なり



(垂) 菅原公

ゆ

の

あ

り

意



直

の

や

人

秋

あ

あ





(平)

源義孝

君がきん

命をへるがも

あとおのひ

ぬあうす

(平) 源重之

風をいそみ
つらうつ波の
れのれ結ミ
くあふを拍を
おのふころ

の那

(平) 大中臣能宣朝臣

市恒

きく大の衆を

のえそひるハ

きそつこの戦
こそおのへ



右大將道細母

なぐねは

夜のおくあ

のともりき

のとりき

(平)



(平) 源重房佐朝臣

かくとくあ

えやわいのまの

きゆんき

きよんき

(平) 源重房佐朝臣

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ





空 泉式部
 阿ふゆふ
 此母のふゆ
 おひひふ
 とひとひの
 あふふふ
 の南

空 儀同三司
 日まれのり
 はんあふ
 かふふふ
 ちの銭り
 命とふふ那



空 大納言公任
 龍乃者
 久々あり
 ぬれむ
 なふふ
 あふふふ



空 赤染
 屋まふ
 ねあふ
 まのふふ
 ふけふ
 月ふふ

空 式部
 免ふふ
 見ふふ
 日ふふ
 ふふふ
 赤染の月ふ



空 大貳三位
 馬山ふ
 さふふ
 いふふ
 人哉
 やふふ





(半)

清少納言

赤城こめて
とりのそと者
ハナハナと
此年
笑ふ あつさの
あつさ

権中納言匡房

高所乃
とつへきさ
はまふなり
あふ山
あふ山
あふ山

(主)



突 小式部内侍

大江山いづ峰
みちねさき丸
あふ山
あふ山

突 伴勢大輔

以めへのあふ山
と屋あふ山
きつふあふ山
このあふ山
あふ山



(主) 左京右大夫藤

とえあふ山
あふ山
あふ山
あふ山

(主) 権中納言定頼

朝つあふ山
あふ山
あふ山
あふ山





法性寺

入内前関

白鳥大長

(主)

和田のそと

お相出で又き

久のさくらを

井千あぶ

あきつ

あきつ

左京大夫影補

秋風平

量形ひく

雲のさくらより

月乃あ

市の

きやけさ



(主) 源後頼朝

うのまゐる

人哉もつせの

山れろ

もげのまゐ

いれぬものを



(主) 後醍醐天皇

命あて

あまれもの

秋をいぬる



(主) 侍賢門院堀河

あまのあき

みまき

あまのあき

あまのあき

あまのあき

あまのあき

あまのあき

あまのあき



(主) 後醍醐大寺左大臣

あまのあき

あまのあき

あまのあき



⑤ 因法師

おもひひび
命をある
いのちをうけ
まをえぬを
あまふあり
けり



⑥ 俊直法師

おもひひび
命をある
いのちをうけ
まをえぬを
あまふあり
けり

⑦ 崇徳院
瀬をまやみ
せらる瀬川の
日れまもま
あつむとぞ
れり



⑧ 源重昌
あつむとぞ
れり



⑨ 白土大后宮方俊成

おもひひび
命をある
いのちをうけ
まをえぬを
あまふあり
けり



⑩ 藤原清輔

おもひひび
命をある
いのちをうけ
まをえぬを
あまふあり
けり

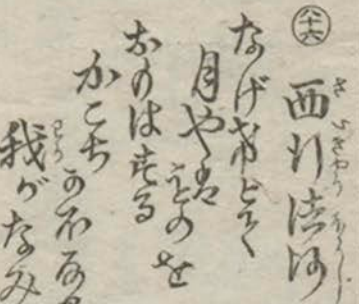




皇家門院別當
なほ江の
河のうら
かに一か
身を川
とや
意ひるる



後京極 後改
前大政大臣
きりぎりす
あゝや
衣あゝ
ひと里あゝ
ねん



(六) 西川法師
 なげやどぞ
 月や島
 おのはたる
 かこち
 我がなみどのも



(主) 寂蓮法師
 むろさめは
 法をもあそ
 ひぬまの
 勢太ちが
 秋乃夕々



玉式子肉親玉
 玉此をよ
 多へる
 なるへを
 思ふるを
 よへるを
 すゑ



(九十) 飯田院大輔
見やむやる
せどよのあふ乃
神ごも
ぬまきぞめれ
色をいづは



⑤
糸後こご睡ね鐘かね
みより山乃やまの
秋のせきよ
ふるき
あふきむく
こたもうつ
あり

⑥
二條院淡破
我神われがを
志こころ不ふひ平へ
見みえぬ仲なかつの飛と花はな
人ひとこそあね
あふ海うみも



⑦
前大僧正慈圓
此中このちゅうの
あふ那な
なぎはこ
何なんの乃のをぶひ
はたあで
うみも



⑧
未始人みしじん
推中おしちゅうの雲うん空くう家け

未始人みしじん
まのり
うふた
屋やくやも
牙はをこが
ま



⑨
入道前大政大臣にゅうだうぜんたいていだいじん
あふ

あふ
あふゆき
あふでぬり
あふくまのそ
我われ牙はありけり



跡見学園女子大学短期大学部図書館



a0010380970a

英堂

東京府全民

本屋孝助



関根孝助



東京府全民

本野區龜天神町丁目四十五番地

小宮山五郎



92936

明治十八年三月

年同月

御届出版

定價十五錢



百
明徳院
万輔や
ふる起北
まむの志あり
好有りある
むりなりなり

西三位家康
風そよよの
かみちの
ゆめぐさる
志そぞろあり
志新ありりる





百

明治院

る補や

ふるね北

きむの志あり

むりありある

むりありあり

西三佐家侯

風そよよの

わがたの

ゆめがきを

はそねぞあり

志願ありりる



後多和院

人をねひと

あぢきるく

世我のゆえに

そのありの象を



明治十八年

三月同年

御届出版

定價十五錢

編輯人

出版人

金英堂

東京府全民

本町區龜沢町丁目四十七番地

小宮山五郎

関根孝助

同區同町拾九番地

東京府全民

本屋孝助

同區同丁

發賣元

92936

